



押杜っ子



No.4 令和8年7月17日 発行／古屋 正樹



日本の古き良き風情を残した鎌倉
情緒漂う奥ゆかしい魅力に
しばし酔いしれる・・・

画像は一部修正あり

「百聞は一見に如かず」 修学旅行見聞録

「楽学両道 ～歴史や文化を学び 笑顔満開の修学旅行～」のテーマのもと、6年生が心待ちにしていた修学旅行が、6月24～26日に実施されました。鎌倉・東京・千葉と、京浜地区を思う存分堪能してきました。

1日目は「いざ鎌倉」へ。午前中は北鎌倉を中心に、午後は高徳院大仏や長谷寺を中心に、事前に練りに練ったコースを、班ごとに時間をかけて散策しました。道に迷ったり予定時刻がずれたりとはプニングはありましたが、みんなで協力して、楽しく乗り越えることができました。古き風情を残す鎌倉に、ホッとすることも見られました。

2日目は都内の要所見学。日本の政治の中枢である国会、南アルプス（旧櫛形）出身の内藤多仲博士が設計した東京タワー、歴史の魅力満載の江戸東京博物館を堪能しました。大都市の交通事情や高層ビル群といった、山梨とは違う一面も知ることができました。

3日目は東京ディズニーランド。1日目、2日目をしっかり学習した子どもたちは、思う存分「夢の国」を堪能していました。夢の国でも学ぶことはたくさんあります。キャス

トに質問したり友だちを思いやったりする姿があり、とても微笑ましく感じました。

「修学旅行」とは読んで字の如く、「**学びを修める旅行**」であり、日常の学校生活では学ぶことのできない、まさに「**生きた学習**」の場です。教室で何度も何度も学習した内容を、実際に自分の目で確かめる「**一見**」の場です。そして、一生に一度しかない小学校時代の修学旅行だからこそ、そこで繰り広げられるすべての出来事が新鮮であり、有意義であり、貴重なのです。特に、友と過ごすこの3日間は、何物にも代えがたい時間なのです。故に、3日間に「観て、聴いて、感じた」ことのすべてが「一生の宝物」となります。たかが3日間と言えども、6年生にとってはかけがえのない3日間であり、また一つ心豊かになった時間であったに違いありません。修学旅行の取組で培った数々の**経験と力**を今後
に生かし、押原小のリーダーとして、さらに成長してくれることを期待しています。ご支援いただいた保護者の皆様にも感謝申し上げます。



みんなよくがんばった！ 1学期終了！！



1学期もわずかとなり、ここまで頑張ってきた子どもたちにとって、待ちに待った夏休みがすぐそこに迫ってきました。(このたよりが組回覧で地域の皆さんのもとへ届く頃にはすでに夏休みに入っていることでしょう。)

夏休みは、正式には「夏季休業」といい、法律で定められた休みです。しかし、その期間は各教育委員会が決めることになっているため、地域によって若干の差があります。例えば、北海道では夏の時季が短いため、7月下旬から8月お盆明けくらいまでといった具合です。「え～、だったら北海道の子は夏休みが短くてかわいそう」という子どもたちの声が聞こえてきそうですが、その分、冬休みが長くなるので、年間を通じた休業日は全国ほぼ同じくらいの数になります。山梨県内でも富士北麓や北杜市で、それに似たような状況があります。

さて、1学期を振り返ってみると、4月からあっという間の4か月でした。毎日の学習はもちろんのこと、学年行事や児童会行事、友だちや先生とのふれあいを通して、どの子ども大きく成長した1学期だったと思います。6年生は、学校の「顔」となり、押原小をよりよい学校へと導いてくれています。また、5年生以下の子どもたちも、わずか4か月の間に、大きな成長を見せてくれました。中でも1年生は、「**初めての学校**」に戸惑いながらも、70日間を無事に送れたことは、小学校のスタートにあたり大きな財産になったと言えるでしょう。すべての子どもたちが、一つまた一つと力を付けられた1学期であったと感じています。どの子ども本当によく頑張りました。🌸🌸

さあ、いよいよ夏休みが始まります。子どもたちの頭の中は、きっとやりたいことだらけでしょう。長～い休みだからこそできるたくさんの経験を通して、一段とたくましくなった顔を2学期に見せてほしいと思います。ダラダラとした時間なんてもったいない！「やりたいことリスト」を自分で作って、たくさんチャレンジしてほしいと思います。ぜひ、夏休みを「**夏体験**」に変えてほしいと思います。